

記念撮影する受賞者ら＝11月23日、出雲市東林木町の鳥巢コミュニティセンター＝



石鼎賞に大沢一晴君(大津小)

小学生俳句コンクール

表彰式に
は、優秀賞

出雲市小学生俳句コンクールの表彰式が11月23日、出雲市東林木町の鳥巢コミュニティセンターであり、石鼎賞(最優秀賞)に大沢一晴君(大津小6年)の句が選ばれました。

主催した同コンクール実行委員会(坂本達雄会長)は、大正期の著名な俳誌「ホトトギス」を代表する作家として知られる同市出身の俳人、原石鼎の顕彰碑が2021年11月に生誕地の塩冶町に建立された。

3年目の今年は、7～9月に市内小学生を対象に俳句を募集。これまでで最多の1741人から2862句(二人2句まで)の応募があり、当初から選者をつとめる夏井いつきさんにより、石鼎賞(最優秀賞)1句、優秀賞15句、佳作20句が選ばれました。

れたことを機に、俳句文化を継承し、子どもたちに裾野を広げていこうと市民有志により設立されました。

以上、受賞者16人が出席。実行委員の岡崎博文塩冶小学校長から賞状を受け取り、自分の俳句を2回ずつ読み上げ、会場の保護者らに披露しました。その後、夏井さんが受賞者を一人ずつ自分の横に立たせながら講評。石鼎賞を受賞した大沢君の「炎天下つなわたりのサルどこまでも」は、下の句の「どこまでも」に情景描写とともに自分の感情が込められている点、素晴らしいと称賛しました。

シリーズ

郷土の偉人

24



井原雲涯

島根と中央つなぎ、書家育成



井原雲涯(出雲文化伝承館提供)

井原雲涯(本名・録之助)は、現在の出雲市多伎町出身で、大正から昭和初期にかけて全国で注目された書家です。

雲涯は、1868(明治元年)年に当時の神門郡口田儀村に生まれました。

松江藩の儒学者だった内村鱸香に漢学を学び、25歳の時、「明治の三筆」(※1)の一人、日下部鳴鶴(1838-1922)に入門しました。

県内で教師としてつとめるかたわら書の研さんを重ね、51歳の時、鳴鶴が主宰した大同書会の機関誌「書勢」の2代編集長となり、この機関誌などを通して多くの書家を育てましたが、61歳で亡くなりました。

書を広め、盛んにするきっかけとなったことは、雲涯の大きな功績の一つにあげられています。

雲涯の功績をたたえ、広く知ってもらおうと今秋、出雲市浜町の出雲文化伝承館で「井原雲涯とよかりの書家」と題した企画展が開かれ、多くの人が訪れました。

※1 明治の三筆＝明治を代表する3人の書家のこと。

※2 高弟＝弟子の中でも、特にすぐれた弟子のこと。



わたなべこどもクリニック

小児科/渡辺 浩・婦人科/渡辺 祐実

出雲市武志町836-3(北陽小となり) TEL (0853) 30-8020

～ 病児保育室 ひよこ 併設 ～
TEL (0853) 25-8104

内科 嘉村 医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～12:00	○	○	○	○	○	○	×
13:30～15:30(往診)	○	○	○	×	○	○	×
16:00～18:00	○	○	○	×	○	×	×

糖尿病学会認定専門医 嘉村 正徳

出雲市上島町1025
TEL (0853) 48-0666 FAX48-9022



相川耳鼻咽喉科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○	○	○	○	○	※

出雲市小山町269-1
TEL (0853) 25-3387
※13:30～16:00
(7～9月のみ土曜午後休診)
休診日/水曜午後・木曜午前・日・祝日

